



医療安全通信 第 92 号

Vol.17-2

金沢医科大学米見市民病院
医療安全小委員会
令和 6 年 8 月 31 日 発行

医療従事者の被ばく管理について

ルミネスバッジ



ご存知でしょうか？普段放射線業務に従事しない方も被ばく線量の管理が必要です。数年前に職業被ばくの線量の限度が引き下げられ、被ばくに関する意識はますます強くなっています。

被ばく線量の管理を行うために、検査で透視室や血管撮影室等に立ち入る際には、被ばく線量の把握が義務付けられています。放射線業務に従事する頻度が高い方は、「ルミネスバッジ」で 1 か月毎の被ばく線量を測定しています。また、一時的に放射線業務に

従事する方には、入室時に「ポケット線量計」を渡して被ばく線量を測定します。例えば、CV 挿入(30 分ほど)の検査に従事する看護師の被ばく線量は、微少で検出困難な場合が多いので安心して線量計をお使いください。

職業被ばくの線量限度は 100mSv/5 年かつ、50mSv/1 年です。

◀ポケット線量計の使い方▶

ポケット線量計は、線量計をポケットに差し込みクリップで止めるよう装着します。

*必ずプロテクターの内側に装着してください。

*装着する位置は、男性または妊娠する可能性がないと診断された女性は胸部で、その他の女性は腹部です。

(中央放射線部 大窪梨萌記)



ポケット線量計



看護部医療安全リンク会の活動について

今年度の看護部医療安全リンク会の目標は、「安全対策遵守への取り組みを行い、確認行動が徹底されるようスタッフへ啓蒙活動を実施できる」について各病棟の環境ラウンドを行い、転倒転落に対するスタッフの意識を高める」を掲げ活動を開始しました。

昨年の当院の抑制率は、21.1%となり5に1人が抑止されている現状でした。高齢者の場合、点滴やドレーンなどのチューブ類の抜去、ベッド・車椅子からの転倒転落が起こる場合も多く、インシデントに繋がっており、昨年度は 161 件のインシデントがありました。

現在、病室の環境ラウンドが実施されておらず、転倒予防の強化が必要と考え、リンク会で環境ラウンドのチェックシートを作成しました。環境ラウンドを行う事で普段から転倒転落に対するスタッフの意識を高め、手順の遵守、徹底した確認行動の実施により、入院患者さんに安心、安全な医療・看護を提供できるよう引き続き啓蒙活動を継続していきたいと思ひます。

(内視鏡センター 河端かおり記)



「医療安全通信」QR コード

病院ホームページ「医療安全対策部」に掲載されています

回覧										

令和6年度 第1回医療安全研修会

令和6年7月16日(火) 16時45分から17時45分まで、本年度第1回医療安全研修会が6階多目的ホールで開催され3演題が発表されました。

演題1「医療機器の取り扱いについて」ME部 竹森美香技師長

医療機器の電氣的な安全利用について説明されました。

医療機器の使用時には、患者さん等が感電(電撃)しないよう、電源コードのアース線は必ず接続、プラグは3Pプラグを3Pコンセントに差し込み、2Pの形態は使わないようにしてください。また、生命維持等に関わる医療機器は、停電時でも自動的に電力を供給できるよう、日頃から機種に応じた非常用電源(赤色コンセント)、無停電非常電源(緑色コンセント)を使用してください。その他にも定期的にコンセントや電源プラグの点検を行い、埃や熱の確認をしましょう。



演題2「MRI～基礎編～」中央放射線部 竹越智久主任

MRIの特性や危険性、患者さんへの問診の注意点について説明されました。

MRIは常時強力な磁力が発生しているため金属の持ち込みに注意が欠かせないため、入室時はMRI担当者に声を掛けてください。検査をされる患者さんには事前に、問診のチェックリストを用いて説明をしていますが、最近は増毛パウダーを利用される方が増加傾向にあり、検査日にはつけてこないよう更に注意が必要です。当院では、検査前の確認で、補聴器や増毛パウダーが発見された例から、特に救急の患者さんには気をつけなければならないと考えています。

演題3「診療放射線の安全利用について」放射線科 科長 水橋義和准教授

診療放射線にかかる安全管理体制について説明されました。

日本は、放射線検査が進んでいる一方で、他国と比べて放射線検査による被ばく率が高く、中でもエックス線CT検査による医療被ばくが最も高くなっています。CTの撮影時間、撮影範囲、撮影回数が大きいほど人体への影響が強くなるので、検査の影響による何十年後の癌リスクを考えて、特に子どもや若い方には患者さんの不利益とならないよう注意しなければなりません。また、2021年に被ばくの限量が改訂され、目の水晶体の等価線量の基準が引き下げられました。当院においても透視の時間を短くする等患者さんだけでなく、職員の健康を守るためにも被ばく線量の適切な安全管理が必要です。



水橋義和准教授の発表

研修会の感想では、医療機器、MRIについてわかりやすく実践に活かせる内容だった、放射線被ばくの影響を再認識したといった声が多く聞かれ有意義な研修会となりました。(総務課 森本亜弓記)

第24回富山県公的病院医療安全研究大会

令和6年6月29日(土) 黒部市国際文化センター コラーレにて「第24回富山県公的病院医療安全研究大会」が開催され、当院からは、ME部の棚辺 凌 臨床工学技士が一般演題で「災害による透析への影響から見てきた今後の課題」について発表されました。

発表の中で、令和6年能登半島地震の際に当院の血液浄化センターで行われた透析患者への透析治療と対応、今後の課題について説明されました。

特別講演では、京都大学医学部附属病院 松村由美医療安全管理部教授から「ダブルチェック再考：有効なダブルチェックを行うために」と題して、確認行動についてや、ひとりで確認する発想の転換について解説されました。



棚辺臨床工学技士の口演